

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役
橋本 健一郎



11月のアルミ概況及び12月の見通 (3)

■国内概況まとめ

◆自動車生産

生産動態統計によると、10月の自動車生産台数は、前年比-0.2%の77万6,072台。輸出は、前年同月比+4%の37万1,559台。

◆自動車販売

日本自動車販売協会連合会によると、11月の自動車販売台数（軽除く）は、前年比-6.1%の23万4,715台。

◆住宅着工戸数

10月の新設住宅着工は、持家が減少したが、貸家、分譲住宅が増加したため、全体で前年同月比3.2%の増加となった。また、季節調整済年率換算値では、前月比10.2%の増加となった。

◆アルミ圧延・押出品生産数

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は、前年比-0.6%の14万8,991 t。6か月ぶりマイナス。

板は生産・出荷ともにプラス。内需の主要分野は減少したが、輸出が下支えをし、出荷全体ではプラスとなった。押出は生産、出荷ともにマイナス。最大用途である「建設向け」は、住宅着工戸数の減少を受けて減少が続いている。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

前年比 +3.3% 6万2,686 t 2か月連続プラス
出荷 +2.5% 6万3,457 t 15か月ぶりプラス

◆輸 出

新地金	+117.5%	311 t
二次合金	-40.3%	709 t
スクラップ	+19.8%	3万7,652t
アルミ缶	+3.6%	7,688t

◆輸 入

新地金	-10.5%	9万3,048 t
二次合金	-16.4%	9万2,515 t
スクラップ	+17.5%	737 t
合金スクラップ	+10.6%	8,608 t

■見通し

◆自動車販売台数

国内向け販売は、年末に向けた節目の“買い替え”需要や、為替後押しでの価格競争力維持により、少なくとも「横ばい〜若干プラス」で推移。

特に軽自動車や低価格帯のコンパクト車、実用車が比較的堅調。中間層以下の購入層は「値ごろ感重視」で動きやすいため。

◆自動車販売台数

国内工場もこの需要に応じて、安定稼働あるいはやや増産。特に軽・コンパクト、実用車を中心とした生産に回帰。

円安やコスト競争力を背景に、輸出向けも“効率的な品目”を絞りつつ継続。

◆アルミ圧延・押出品生産数

12月のアルミ圧延・押出品生産は、10〜11月の持ち直し基調を維持しつつも、伸びは横ばい圏に収れんする見通し。板類は「缶材」「はく地」が堅調だが、自動車の国内需要減速やモデルチェンジ期の調整で増勢が鈍る。押出はトラック・バス向けが底堅い一方、建設向けの低迷が続き全体を押し下げる。輸出は円安が追い風となるが、米中景気の減速感と金属市況の振れが上値を抑制。総じて「小幅プラス〜横ばい」の安定推移が妥当なシナリオになる。

◆アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績

12月のアルミ2次合金市場は、欧米の年末需要の平準化と中国の景気刺激策の効果が限定的な中、総じて力強さを欠く展開となる。自動車向けは、半導体供給の改善で一定の下支えが見込まれるものの、完成車メーカーの慎重な生産計画が重荷となり、生産は小幅な増減を繰り返すレンジ相場となる公算が大きい。出荷は、在庫整理の長期化で前年割れが続く可能性が高く、特に大口ユーザーの発注が鈍い点が響く。総じて改善の芽はあるが明確な反転には尚時間を要する局面と考える。

■スクラップ景況予想

2025年12月の国内アルミスクラップ需給は、現場肌では依然として落ち着かない状況。スクラップ回収量は徐々に戻りつつあるものの、物流の遅れや一部グレードの偏在が続き、必要なタイミングで原料が揃わないケースが目立つ。一方で自動車部品や建材向けの引き合いは堅調で、仕入れ確保が最優先課題。結果として、需給はややタイトで価格も高止まりが続く見通し。